

平成23年度 府立福知山高等学校三和分校 学校経営計画 (実施段階)

学校経営方針(中期経営目標)	昨年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
<p>地域・保護者の期待に応える学校づくりの推進</p> <p>1 基礎学力の向上と希望進路の実現に向けて、生徒個々の実態に応じた指導を徹底する。</p> <p>2 調和のとれた人格の育成に向け、体験活動を重視した教育活動を実践する。</p>	<p>(成果)</p> <p>1 4年生は、希望進路に決定ができた。</p> <p>2 教育相談会議や特別支援教育コーディネーターによる関係機関との連携により、障害等課題がある生徒の実態把握や指導の手立てが共有化でき個々の生徒に応じた指導ができた。</p> <p>3 部活動において、全国大会・近畿大会等の出場を果たした。</p> <p>4 農業科・家政科とも地域連携やボランティア活動に取り組むことができた。</p> <p>(課題)</p> <p>1 取組についての教育効果の検証と、これらの取組の改善・整理・統合が必要である。</p> <p>2 OJTの意識の定着についてはまだ不十分である。</p> <p>3 個に応じた指導の観点からも、特別支援教育の理解と研究を一層推進する必要がある。</p> <p>4 生徒同士の理解を深める取組を進め、互いに尊重し合い高め合える学校づくりに取り組む。</p> <p>5 全員が、卒業までに就労体験に参加できるよう取組む。</p>	<p>1 基礎学力の定着 「わかる授業」の実践と、生徒個々に応じた基礎学力を定着させる。規律ある授業環境の定着を目指す。</p> <p>2 原級留置・中途退学の防止 生徒の実態把握に努め、原級留置・中途退学の防止に取り組む。</p> <p>3 社会人になるための自覚を促す指導 基本的な生活習慣の確立を促し、体験活動を重視する中で豊かな人間性や社会性を養う取組を実施する。</p> <p>4 生徒支援の研究と充実 (1) 中丹地区府立学校特別支援教育研究協議会を発足させ、高等学校における特別支援教育を充実させる。 (2) 生徒個々の指導計画を作成し、各種障害のある生徒の指導方法や授業の方法を研究し実践する。</p> <p>5 希望進路の実現 保護者、各種関係機関と連携を深め、4年生全員の進路決定に向け取り組む。</p> <p>6 OJTの充実 教職員の資質・能力の向上及び組織としての学校の教育力を高めるという観点からOJTの意識の定着を図る。</p> <p>7 適正な学校運営と安心・安全な学校づくり 全教職員が危機意識を持ち、日々の点検に努め、適正な学校運営にあたるとともに、危機管理体制を確立し、安心・安全な学校を作る。</p> <p>8 家庭・地域・関係機関との連携の強化 積極的に家庭連絡・家庭訪問を行うなど、家庭との連携を密にし信頼関係を築く。また、広報活動を充実させ、中学校や地域等へ三和分校の教育方針等を理解してもらうための取組を一層推進する。さらに、関係機関との連携・協働により、一層の教育効果の向上に努める。</p> <p>9 本年度京都府が担当する全国家庭科実践研究会京都大会の実施とその成功に向け、三和分校家政科が一丸となって取り組む。</p>

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
組織・運営	・教育目標達成に向けた組織体制の確立	・学校経営計画に基づき、各分掌・教科が有効に機能するよう各種会議を充実させる。 ・教職員の連携により教育力を高める。	B B	・会議の定例化と課題に応じた開催で組織的な対応ができた。 ・教科、分掌のそれぞれの取組ができた。
	・生徒、保護者、地域のニーズに応える、開かれた学校づくりの推進	・生徒や保護者とのきめ細やかな対応で、効果的な指導に当たる。 ・学校説明会や学校行事、PTA総会、各学科の取組やホームページを通して、三和分校を理解してもらう。また、PTAと連携し、より良い活動を支援する。	B B	・生徒、保護者との対話を多くし効果的な指導に当たった。 ・三和分校を理解してもらう取組ができた。 ・PTAとの連携もできた。

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国家庭科実践研究会京都大会の実施とその成功に向け、三和分校家政科の取組を支援する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・準備段階における校内協力体制を整え、支援する。</li> <li>・実施段階における校内協力体制を整え、支援する。</li> </ul>	A		<ul style="list-style-type: none"> <li>・天候にも恵まれ、参加者も200人を超え成功裡に終了することができた。</li> <li>・日程的にも校内の協力を得ることができた。</li> </ul>
事務部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・円滑で的確な窓口業務と分校全体を見渡した、教育環境の整備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・親切、丁寧な対応を心がけるとともに、援護制度等、担任との連携を密にし、的確な事務処理を進める。</li> <li>・予算の有効活用と適正な会計事務を行う。</li> </ul>	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員の協力のもと、円滑な窓口業務ができた。</li> <li>・予算の有効活用ができた。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・危険箇所の早期発見、早期改修と校内教育環境の安全衛生管理を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全点検を定例化し危険箇所の早期発見と、迅速な対応に務める。</li> <li>・湯茶やゴミ回収、溝の消毒等校内の清潔、整理・整頓に務める。</li> </ul>	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・危険箇所の早期発見と迅速な対応ができた。側溝グレーチングや渡り廊下暴風扉が設置できた。</li> <li>・排水溝等の消毒が課題である。</li> </ul>
教務部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の実態をふまえた丁寧でわかりやすい授業実践と、基礎学力の定着をはかる総合的な学力の充実推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学力の実態を把握し、「生徒がわかる授業」を展開し社会生活に役立つ学力の定着を図る。</li> <li>・授業参観期間を設け、実践交流する。</li> <li>・特別支援教育コーディネーター、学習支援教諭と連携し、課題のある生徒の基礎学力を定着させ、進級・卒業を目指す。</li> <li>・教科担当者会議（全教員）を開催し、生徒の実態の把握に努め共通理解をする。</li> </ul>	C	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の実態に合わせた「わかる授業」の展開に個々に努めたが、課題のある生徒にはさらにきめ細やかな指導が必要であり、そのための工夫を共有できるようにしたい。</li> <li>・授業参観週間を2回実施できたが、実践交流には及ばなかった。</li> <li>・ITや学習支援教諭の支援体制の充実が、課題のある生徒の進級・卒業に大変有効である。</li> <li>・1・2学期の中間考査後に実施できた。名前の挙がった生徒について、生徒指導部・担任とともに指導できた。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎学力講座、トライ学習、ベーシック講座の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各講座・学習を活用し、生徒の学力を向上させる。効果的な講座学習とするため、取り組み方の工夫改善に努める。</li> </ul>	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講座編成、役割分担等を工夫改善した。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業内容の精選と評価の工夫・検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・内容を精選し、到達目標を明確にした評価の研究と実践を行い、進級・卒業に向けて取り組む。</li> </ul>	C		<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒個々の学力の差が大きく、課題も大きい。評価のあり方についての研修が必要である。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・原級留置、中途退学の防止</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個々の課題を明確にし、適切な指導を組み立て確実に実践する。</li> <li>・家庭との連携を密にし、保護者等の状況を十分に把握し、生徒のためにより方法を保護者と確認し、指導する。</li> </ul>	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・追認試験に取り組む姿勢に課題の残る生徒が多い。追認試験の行い方も検討し、さらにきめ細かな指導が必要である。</li> <li>・担任・生徒指導部・保健部と協力して個々の生徒に応じた指導を行った。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書、視聴覚、情報関係の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒に身近な図書・視聴覚活動を展開する。</li> <li>・情報ネットワーク（教員用）の充実を図る。</li> </ul>	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書、視聴覚は生徒の実態に応じて活用できた。</li> <li>・新校務システム研修会を行い、一定の理解を得られた。ネットワーク等には専門家のサポートが必要である。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な生活習慣の確立</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭と連携し、「学び」や「生活」の基礎となる生活</li> </ul>	B		<ul style="list-style-type: none"> <li>・年々多様化する生徒や家庭状</li> </ul>

生徒指導部	に向けた指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>習慣の確立のための指導を行う。</li> <li>・社会性やコミュニケーション能力養成のため、挨拶や場に応じた言葉遣いを日常的に指導する。</li> </ul>	B	B	況に戸惑うことはあるが、挨拶や言葉遣い、服装等について朝の立ち番などを通して、日々粘り強く働きかけることができた。
	・納得と説得を基本とする生徒指導の確立	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒個々の事情や家庭の状況に配慮し、適切な指導方針を確立し、丁寧な指導を心がける。</li> <li>・全教職員一致した指導方針を確立し、ねばり強く指導し、家庭を含めた納得と理解につなげる。</li> </ul>	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒への細かな声かけをし、家庭との連携を密にとることを心掛け指導をした。その結果、一定の家庭の理解と協力を得ることができた。今後より一層、全教職員一致した指導体制を確立したい。</li> </ul>
	・自主性の確立	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別活動や生徒会活動の適切な援助を通して、生徒の自主性、社会性を育てる。</li> <li>・ボランティア活動を通して、福祉の重要性の理解や環境問題への理解を深める。</li> </ul>	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒会活動の適切な援助を心掛け「けじめ」を合い言葉に取り組みを進めた結果、一定の成果を上げることができた。</li> <li>・地域の清掃活動を学校全体で行い、環境問題への意識を高めることができた。</li> </ul>
進路指導部	・希望進路の実現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の希望を確認し、家庭や関係機関（ハローワーク、生活支援センター等）との連携をとりながら、希望進路実現に向けて計画的に取り組む。</li> <li>・就職支援教員との連携を密に行い、実態把握と就職試験等に向けた対策を立案し就職希望者全員が一次試験に応募できるよう指導にあたる。</li> </ul>	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・厳しい就職状況の中、一次応募が不調に終わる生徒が多かった。より丁寧な指導が必要である。</li> <li>・進学希望の生徒は希望の進路決定ができた。</li> </ul>
	・課題のある生徒の進路決定の取組強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アルバイト等の就労体験のない生徒の実態を把握し就労体験を促し、卒業までに全員の体験を目指す。</li> <li>・課題のある生徒を理解し受け入れてくれる就職先の開拓に取り組み、進路指導の方法について情報収集をする。</li> <li>・課題のある生徒の進路決定に向けて、発達検査・療育手帳の取得・就労体験・学校見学等を早い段階から実施できるよう生徒・保護者に働きかける。</li> </ul>	A	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アルバイト経験のない、就職希望生徒に対して、特別支援教育コーディネーターと連携し就労体験を夏季休業中に実施することができた。</li> <li>・特別支援教育コーディネーターの協力を得て発達検査、療育手帳の取得等早い段階で働きかけ、指導することができた。</li> </ul>
	・援護制度の紹介と活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個々の経済的課題を把握し、修学援護と就職準備に役立つ情報を提供し活用を指導する。</li> </ul>	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・早い段階での、きめ細かい指導が必要である。</li> </ul>
保健部	・健康教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日々の保健室利用状況や生徒の状態を的確に把握し、必要に応じた丁寧な対応を実践する。</li> <li>・学校行事やHR学習において、講演・講習会を計画し、より充実した健康教育を実践する。</li> </ul>	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の実態に応じた指導、対応を継続して行うことができた。今後は、生徒自らが健康管理できるように指導したい。</li> </ul>
	・教育相談活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員との連携を図り、生徒へのきめ細やかな指導と支援をする。</li> <li>・スクールカウンセラーや専門機関との連携を的確に行う。</li> </ul>	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月SCもメンバーとして教育相談会議を実施し、共通理解ができた。</li> <li>・専門機関との連携も的確に行えた。</li> </ul>
	・環境美化活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習環境が清潔・整然と保たれるよう清掃やゴミ分別の指導を徹底する。</li> <li>・生徒委員会活動を活発化し、環境美化教育を強化する。</li> </ul>	C	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゴミの分別はまだ不十分である。清掃の補習を新たに採り入れ、美化活動への意識付けができた。</li> </ul>

	・安全点検	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校舎内外の安全点検を定例化し、学習環境を整える。</li> <li>・修繕方所や整備の必要な状況は、事務部等との連携で速やかに対処する。</li> </ul>	C	B	・定期検査は計画通り実施できた。日常点検は不十分であり、点検体制の調整、定着を図っていきたい。
人権教育部	・人権意識の高揚と、自己を尊重できる集団づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常的に人権意識を高め、体験的な学習を取り入れ、生き方・在り方を考える機会をつくる。</li> <li>・人権アンケートの結果を生かし、計画的系統的な人権学習をすすめる。</li> </ul>	B	B	・「コミュニケーションの取り方」をテーマとして、HRで体験的な学習をすることができた。事前研修にも取り組めた。
	・きめ細かな、就・修学援助	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種奨学金等、保護者・担任・事務と連携をとり確実に速やかに申請する。</li> <li>・進学や就職支度金等に関する手続きなどに的確に対応する。</li> </ul>	B	B	・生徒、保護者との連携を密に取り、丁寧に対応することができた。
学習・特別支援	・生徒の実態把握	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中高の連携や各種実態調査などを通じて生徒個々の認知状況など実態把握に努める。</li> <li>・「障害」特性の把握を行い、学習活動や日々の指導に活かす。</li> </ul>	B	B	・生徒の実態を知る上で、教職員の一致した取り組みを進めるために、生徒の日常の様子について交流ができた。
	・学習支援の方法の研究	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題のある生徒のニーズに応じた支援を行うため、関係機関と連携しながらその方法や内容についての研鑽を深める。</li> <li>・具体的な支援方法や内容を探るため発達検査を実施する。</li> </ul>	B	B	・これまで経験しなかった事例が出る中で支援学校に支援を依頼し個別の指導や事例研修ができた。
	・関係機関との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就労保障のため関係機関と連携して取り組む。</li> </ul>	B	B	・本人保護者の了解のもと、発達検査を行い支援につなぐ事例が増えてきた。
学年部	・1、2年次では基本的な学習習慣・生活習慣の確立と、学校への定着	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科・家庭・諸機関との連携により個々の生徒の課題・特徴等の把握</li> <li>・上記を踏まえて、個に応じた指導の展開</li> </ul>	B	B	・卒業生も含めて、関係機関の協力・支援のもと就労の安定に寄与できた。
	・3、4年次では社会的スキル・就労意識の確立と、卒業後の進路実現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常の挨拶等基本的なことから、アルバイトや就労体験など個に応じた方策を行う。</li> <li>・進路指導部や支援コーディネーターとの連携を図る。</li> </ul>	B	B	・これまで経験しなかった事例が出る中で支援学校に支援を依頼し個別の指導や事例研修ができた。
	・2、3年生研修旅行の成功	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2、3年生合同の修学旅行の取組を通して、生徒の自主性や協調性を育み、研修を深める。</li> </ul>	A	A	・卒業生も含めて、関係機関の協力・支援のもと就労の安定に寄与できた。
	・日常的な情報共有	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日頃から生徒に対する議論を深め、個々の生徒の共通理解に努める。</li> <li>・生徒、保護者との対話を深め、必要に応じて家庭訪問など丁寧な対応を心がける。</li> </ul>	B	B	・4年生に関してはアルバイト経験のない生徒に就労体験をさせることが出来た。
農業科	・基礎的、専門的技能の向上と生きる力の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各教科や活動の中で、意欲的で節度ある態度を育成する。</li> <li>・基礎基本と実験実習を重視し、専門的技能の向上をはかる。</li> </ul>	B	B	・進路決定にあたっては、ハローワークや就職支援教員等とも密な連携をした。
	・地域連携の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生産物の販売活動や校外活動を充実させる。</li> </ul>			・授業規律を守らせ、意欲の育成、基礎学力の定着、社会性の養成に努めた。

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・福知山駅北口「花時計」の取組や三和町内機関・施設等、地域との連携をはかる。</li> </ul>	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>た。</li> <li>・地域との連携等、充実した取り組みがなされた。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農業クラブ活動の充実と活性化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農業クラブ活動を活発におこない、校内行事や府連各種行事に積極的に取り組ませる。</li> <li>・農業関連資格取得の推進（小型建機、危険物、農業検定、日本農業技術検定）</li> </ul>	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・担当事業は充実したが、府連行事への参加が少ない。</li> <li>・資格取得への積極的参加を促し、合格に向けて指導が必要である。</li> </ul>
家政科	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的専門的な知識・技術の定着</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習等の体験を通して基礎的・基本的な知識・技術の修得を図り、学習したことを実生活に活用する意識や態度を養う。</li> <li>・学習困難な生徒のつまずきの原因を明らかにし、指導の工夫や補習等を行い達成感を持たせる。</li> </ul>	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一定の成果は得られたが、欠席が多く課題が残る。</li> <li>・茶道体験学習を実施した。</li> <li>・補習に要する時間は多く、達成感を持たせる指導には時間がかかる。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・意欲的な学習の構築</li> <li>・積極的に前向きな集団活動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食物・被服検定4級の全員合格、さらに高度な資格取得に挑戦する取り組みを進める。</li> <li>・文化祭や作品ショーなど多くの人の前で、自信を持って発表ができる力をつける。</li> </ul>	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4級合格は、約4割であり、被服3級に挑戦する生徒が1人出たが、合格には至らなかった。</li> <li>・集団活動の場面では欠席が多かった。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域に根付いた教育活動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会人講師活用事業により授業内容の充実と活性化を図る。</li> <li>・地域の保育園や高齢者施設の見学で交流を深め学ぶ機会とする。また、文化祭で日頃の学習の成果を発表し、三和分校の活動を理解してもらう。</li> </ul>	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・着付け教室や絵本に関する社会人講師派遣事業の有効活用ができた。</li> <li>・見学交流に出向いたり、文化祭での発表などに取り組めた。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭クラブ活動の充実と、社会性の高揚</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭クラブ活動の運営を自主的に取り組ませる。ボランティア活動への自発的な参加を呼びかけ体験させる。</li> </ul>	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>東日本大震災支援のタペストリー作りやキャラメルポーチプレゼントなどのボランティア活動ができた。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国家庭科実践研究会京都大会の成功</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前の取組、実施段階の取組を家政科全員で取組み成功させる。</li> </ul>	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>協力して取組み、成功裡に終わった。</li> </ul>
次年度への改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多様な生徒に対応するため、新一年生を中心に年度の課題を素早く掌握し対応策を打ち出していく。</li> <li>・進路指導に関して、関係機関とも連携し、個々の生徒にあった指導を進めていく。</li> <li>・農業クラブ、家庭クラブの活性化を図り、学校全体をより元気にしていく。</li> <li>・生徒個々の特性や教育的ニーズを踏まえた指導を行うため、障害特性、福祉行政に関する研修を実施する。</li> </ul>				